

平成30年度 第2回たつの市学校規模適正化検討委員会

会議録（抜粋）

日 時 平成30年10月9日（火） 午後7時
場 所 市役所分庁舎 2階 第3会議室

1 協 議

たつの市における今後の学校の在り方について（答申）案 について

委員

たつの市の人口推移のグラフは昭和63年から書いているにも関わらず、児童数の推移等の方は全て合併後の平成17年からになっている。グラフの縦軸、横軸もないので分かりにくい。

委員長

データを合わせたほうが比較しやすいということですね。平成17年に合わせる方がよろしいかと思えます。データも数字を併記するなど、分かりやすい表記がよいかと思えます。

委員

他の小学校は何パーセント減っているということばかり書かれているが、増えている学校のことは触れられていません。現状としてそのことも書いておくことが必要ではないかと思う。

委員長

この表はあくまでも平成17年度と平成30年度を比較した増減率で書かれています。これから増えそうだという学校もあるということですね。今のご指摘で事務局としてはどうお考えでしょうか。

事務局

確かにA地区では造成が進んでおりますが、これをどう捉えられるかということは難しいです。この表は、あくまでも現状としての増減を示しています。

委員

国や県レベル、全体的な平均から比べて、たつの市の児童数の増減はどのようなのですか。客観的に分かるようにしてほしい。

事務局

この人口推移に、参考データとして国や県のデータを追加するよう検討します。

委員長

たつの市の現状を客観的に捉えるためには、参考情報としてそのようなデータもあればより分かりやすいというご指摘です。例えば、減少率でも分かるようにしたらよいかと思います。

また、アンケートの結果については、小規模校と大規模校のご意見が混在している中での回答者数4千人余りの保護者の方からのご回答となっています。自分の子どもが通っている学校がどうなるかといった当事者側とそうでない側とはまた違ったご意見になるかとは思いますが、全体的な傾向としての調査結果であったということです。

委員

地域から学校がなくなってしまったときに、地域のために再生する代替案がない。地域の理解を得ることは難しいと思う。全体的に人口が増えることは無理だと思うが、地域格差を少しでもなくすため、学区再編やどこの学校にでも自由に行けるようにすることも一つの方法だと思う。

委員

地域の伝統文化に関わる人も少なくなってきた。伝統文化は子どもと一緒に地域のことを知って、一緒に育てるもの。子どもが少なくなり寂しくなってきた。小規模の学校が駄目だということではない。地域の皆さんは少しでも地域に小学校を残してほしいと思っている。地域の理解を得ることは難しい。どのようなスタイルが良いか、難しい課題を突き付けられていると思う。

委員

基本的な考え方で、小学校の「小規模校の良さを生かしつつ、統廃合を含め、」と書いてあるが、「小規模校の良さを生かすこと」と「統廃合する」ことは相反しているのではないかと。国や県が統廃合ありきで進めている中、統廃合はやむを得ないと思っているが、小規模校の良さを生かせたら統廃合しないという文章。それで大丈夫なのか。

事務局

子どもの数が減ってきており、地域の方の不安がある中、今回、本市では初めて学校の在り方について方針を出そうとしているものです。「要検討基準」を定め、その基準になれば、その該当する地域に出向いて一緒に検討していくこととしています。いろいろな意見が出る中で、地域の皆様が小規模のままでよいと判断されたら、現状のままで小規模校の良さを生かすということになります。地域の方々のご意見を十分に汲み取ったうえで判断していくということです。

委員長

統廃合ありきではないということは御理解いただけるかと思います。先ほどのご指摘のとおり、小規模校の良さや統廃合は相反するということから、文章表現を少し工夫するなどが必要であるかと思

います。

委員

資料の留意事項の1点目に通学手段の確保のことが記載されていますが、これは検討することでもなく、必須条件ではないでしょうか。保護者としては、統合となると子どもの通学はとても不安です。

委員長

通学支援は当然のことで、より踏み込んだことを記載すべきということですね。

事務局

いろんなご意見が出る中で、通学手段ということは必ず出てくるものですので、「当然考えなければならぬもの」ということとして挙げさせていただいているものです。

委員

B町のC地区では校区が2つに分かれている。C地区の北側はD小学校へ、南側はE小学校に通っている。統廃合という問題と併せて、学区再編という難しい問題も、検討課題の1つに挙げていただけたらと思う。

事務局

学区再編は大きな課題でもあります。当時、どういう経緯で小学校区を分けられたのかということも含めて、地域の方と十分に話し合いをしなければならないと思っています。

委員

大規模校、小規模校の将来のことを、その地域の代表ではない者がいろいろと意見を言うことは難しいと思う。意見が偏りませんか。

委員長

今回お示ししている内容は、複式学級若しくは将来的に複式学級になるであろう学校に限定しており、1学級あたりの児童数や学校全体の児童数で統廃合の対象にはならないということと、関係当事者の意見、要望を最大限に受け入れ、検討を進めていくということは御理解いただけるかと思います。

ただ、当事者ではないため意見が言いづらいということもありますが、ここでは検討委員会ということで意見を出し、素案として文章で考えを示すわけですので、解釈等で誤解が生じないようにしなければなりません。他にご指摘等があればお願いいたします。

事務局

皆様から答申を頂いて、その後、たつの市で基本方針を作成します。その基本方針を基に、そこから該当地区の方々と検討を始めていきます。大規模であれ小規模であれ、その地域へ教育委員会が入

り、一緒に今後の学校の在り方について考えていきます。基本方針を作成した後、人口推移のデータ等を基に教育委員会である程度の計画を作ります。検討していく際は、必ずその地域の方とともに話をしていくことを考えております。

事務局

昨年度のアンケートの結果と、文科省の基準を照らし合わせ、客観的に見た中で、この答申案で示しているクラス編成、規模が望ましいと判断しております。答申を基に、こちらの方で基本方針案を作成し、パブリックコメントを行った上で、基本方針を策定していきたいと考えております。

委員長

特定の地域、小学校の代表者での会議となると、別の意味で客観性に欠けることも考えられます。全体で見た方向性ということで、パブリックコメント、地域との話し合いを必要としているということで、御理解いただけたらと思います。

委員

隣同士ではない小学校と統合する場合もあるということですか。

事務局

それも含めて、地域の方と決めていこうとしています。教育委員会主導で統合先を決めるものではありません。

委員

5か年計画、10か年計画という具体的な計画がなく、着地点がない。たつの市建築物再編実施計画が定められているのであれば、具体的な計画を立てられるのではないかと。

事務局

これまでたつの市として方向性を示していなかった。他の市では、3年かかるところもあれば、5年かかるところもある。地域に向いて話をしていない段階で、市の方から具体的な年数、期間を示すことは難しいと考えている。今回の答申案では、そのような具体的な計画は入れていないが、今後の学校の在り方について話し合うことが必要である旨を記し、地域と一緒に進めていこうとしているもので、地域と一緒に話し合い、その中で計画を決めていくこととしています。

委員

幼稚園・保育所再編計画では、何年までにどうするかという方針が出た後、地域から反発があった。具体的な計画をいきなり出すと、かなりの反発がある。本当に難しいと思う。

委員長

タイムスパンの掲載についても、良し悪しがあるかと思えます。

委員

適正規模の基準はしっかりと決めておく方がよいと思う。適正規模を決めておくと、人口推移等である程度のタイムスパンが見えてくる。その後に地域との話し合いを始め、一部例外を認めることも含め、検討していった方がよいと思う。決めておかないと曖昧になってしまう。

委員長

適正規模を明示することによって、その適正規模以外が要検討地域になるということですね。皆様の意見をまとめると、タイムスパンのことで、適正規模の定義を盛り込むかどうかというご意見ができました。

では、長時間に渡り、皆様からのご意見、ご提案を頂戴し、ありがとうございました。次回の検討委員会では、この答申案の修正案を事務局から提示していただき、確認していきたいと思えます。

～ 終 了 ～